

登 録 速 報

農 薬 名：ベルコートフロアブル（登録番号：第 19884 号）（日本曹達(株)登録）

適用拡大登録月日：平成27年8月26日

適用拡大登録内容：

- 作物名「キャベツ」を追加する。
- 作物名「トマト」の適用病害虫名「灰色かび病」の希釈倍数に「4000倍」を追加し、「2000～4000倍」とする。
- 作物名「ミニトマト」に適用病害虫名「灰色かび病」（4000倍）を追加する。
- 作物名「なす」に適用病害虫名「黒枯病」（2000倍）を追加する。
- 作物名「だいず」に「子実汚斑病」（1000倍/散布）を追加する。
- 作物名「にんじん」、「らっきょう」、「たまねぎ」、「すいか」、「メロン」、「きゅうり」、「なす」、「トマト」、「ミニトマト」、「いちご」、「やまのいも」、「だいず」及び「アスパラガス」の使用法「散布」について使用液量を「100～300 L/10a」に変更する。
- 作物名「アイリス」のイミノクタジンを含む農薬の総使用回数を「8回以内」に変更する。

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数	
キャベツ	菌核病	1000倍	100～300 L/10a	収穫28日前まで	3回以内	散布	3回以内	
にんじん	黒葉枯病 うどんこ病 斑点病 菌核病			収穫14日前まで	5回以内		無人ヘリコプターによる散布	5回以内 (種子粉衣は1回以内、 無人ヘリ散布は2回以内)
	斑点病			8倍	2L/10a			
らっきょう	灰色かび病	1000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内	

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミノクジンを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	1000 倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	5 回 以内	散布	5 回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 菌核病 つる枯病				4 回 以内		4 回以内
メロン	うどんこ病 菌核病 つる枯病				5 回 以内		5 回以内
きゅうり	灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 菌核病 黒星病	2000 倍			5 回 以内		5 回以内
なす	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病 黒枯病	2000~ 4000 倍			3 回 以内		3 回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病				2 回 以内		2 回以内
ミニトマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病 斑点病				5 回 以内		5 回以内
いちご	炭疽病 うどんこ病	1000 倍	育苗期 (定植前)	5 回 以内	7 回以内 (育苗期は 5 回以内、 本圃では 2 回以内)		
	うどんこ病	2000~ 4000 倍	収穫前日 まで (生育期)	2 回 以内			
	灰色かび病 炭疽病	2000 倍		2 回 以内			
やまのいも	炭疽病 葉渋病	1000 倍	3L/10a	収穫 7 日 前まで	5 回 以内	無人ヘリコプター による散布	5 回以内 (種いも浸漬は 1 回 以内、 無人ヘリ散布は 3 回 以内)
	葉渋病	12 倍			3 回 以内		
	青かび病	200 倍		—	植付前		
だいず	腐敗粒 紫斑病 子実汚斑病	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 7 日 前まで	4 回 以内	散布 無人ヘリコプター による散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内)
	紫斑病	6 倍	0.8L/10a				
		12 倍	1.6L/10a				
アスパラガス	斑点病	1000 倍	100~300 L/10a	収穫 14 日 前まで	5 回 以内	散布 無人ヘリコプター による散布	5 回以内
		8 倍	1.6L/10a				
アイリス	青かび病	100 倍	—	植付前	1 回	10 分間 球根浸漬	8 回以内
		200 倍				30 分間 球根浸漬	

注意事項の変更：

【追加】

- キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認すること。

【変更後】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲で使用する。
- 0℃以下では増粘あるいは固化により容器から取り出しにくくなることがあるので、室温(25℃)～50℃で3時間程度保存し、流動性が回復した後によく振ってから使用すること。
- 本剤をおうとうに使用する場合、着色期の散布では薬害(着色障害)が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- りんごの落花直後から落花後25日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- 西洋なしの品種ル レクチエではさび果を生じるので使用しないこと。
- 缶桃14号等の缶詰用品種のももでは葉に薬斑を生じるので、かからないように注意すること。
- かきの品種西村早生では葉に薬斑を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- 幼果期のメロン、ばらに対して薬害を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤混用にあたっては事前にその適否を確認すること。
- やまのいも(むかご)に使用する場合、種いも(やまのいも)を浸漬処理すること。
- 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意すること。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 無人ヘリコプターによる散布を行う場合には、次の注意事項を遵守すること。
 - 散布機種 of 散布基準に従って行うこと。
 - 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 散布中に薬液の漏洩がないよう、事前に機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - 散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう、散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以 上